

## 切除不能・再発結腸直腸癌に対する FU+LV+Bv による

### 温熱化学療法 of 検討

戸畑共立病院 がん治療センター

成定宏之 鞆田義士 森岡丈明 今田肇

大田真 北村晶子 垣下ひかる 樋口優子 川崎玲

今回、切除不能・再発結腸直腸癌に対し、標準治療後のサルベージラインにて、biweekly FU+LV+bevacizumab (Bv) と温熱療法を併用した 30 症例を検討したので報告する。

平均年齢は  $64.6 \pm 8.6$  歳であり、治療結果は CR:1、PR:8、SD:16、PD:5。FU+LV+Bv を使用するまでの平均レジメン数は 3.4 (0-10) レジメン。奏効率 30%、病状制御率 83% の治療効果が得られ、治療開始からの中間生存期間 41.6 ヶ月、5 年生存率 33.3% と標準以上の結果が得られた。

切除不能・再発結腸直腸癌に対するに FU+LV+Bv による温熱化学療法は、低侵襲であり、比較的長期にわって、病勢を制御できる可能性のある有効な治療法であると考えられた。標準治療で効果がみられても、有害事象により治療継続困難な症例や、高齢のため標準治療に適応できない症例などの第一選択肢として有用な治療法であることが示唆された。